



ポットラック

プロジェクト

REPORT 02

トーク&ワークショップ

開催日 2024/01/28 sun.

S&Dスポーツパーク富士見を起点としてさまざまな世代、さまざまに暮らす市民の皆さんにとっての居場所をつくっていく「ポットラックプロジェクト」のトークとワークショップが1月28日にクラブハウス2階ミーティングルームで開催されました。トーク23名、ワークショップ16名の方が参加され、公園でやってみようという取組について話し合いました。このレポートでは当日の様子や出されたアイデアをご紹介します。

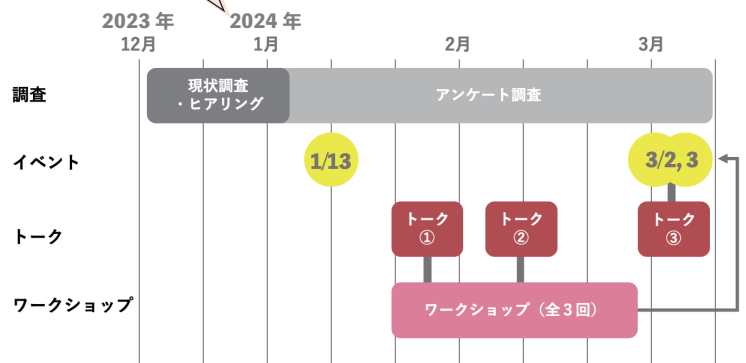
ポットラックプロジェクトって？

自分の楽しみ、やりたいこと、できることを持ち寄る。
小さくはじめる、日常の公園あそび。

本事業は地域の皆さん自身が、公園を「つかう」「つくる」「つなぐ」ことで、さまざまな世代、さまざまに暮らす皆さんにとっての居場所をつくっていく事業です。2023年度から3年かけて取り組みます。「トーク」「ワークショップ」「イベント」の3つのプログラムの中で、公園での過ごし方について考え、企画をつくり、実践。それを繰り返す行うことで、一過性ではない、新しいつながりと日常の中での過ごし方が生まれることを目指します。皆さんが普段の生活で愛用しているもの、やってみたくて思っていることなどを「持ち寄り（ポットラック）」してほしいという想いをこめて命名しました。



2023年度のすすめ方



2024年3月2・3日に参加者のみなさんと公園の過ごし方を試してみるイベントを行います。今回は「小さくはじめる」「TTP（徹底的にパくる）」を合言葉に、今みなさんができること、楽しいと思うことを持ち寄って企画しましょう。

公園での活動と市民活動について

海外の公園を見ると、ひとりでも自由に過ごしていますが、日本は家族や友人と過ごす傾向があります。これは海外に比べてグループに所属して行動することが多いからではないかと言われています。日本は昔から自治会等**集団で活動し、課題を解決**してきました。しかし、人口減少や公共サービスの変化、社会の変化などでその**つながりは希薄化**しています。市民活動は、そのつながりを取り戻し、地域づくりにつながる一つの手段ではないでしょうか。



山口きらら博記念公園

山口きらら記念公園は、博覧会のためにつくられた郊外の広大な公園です。スポーツを軸に、大規模イベントがないときも公園を使ってほしいと取組をスタート。利用者、公園の指定管理者が一緒になって様々な企画を考え、実践しました。この**取り組みのポイントは、ゆるさ**。スポーツだけど、ゆるさを取り入れることで年齢やハンディにとられない**多様性が生まれます**。また、市内の別の場所で活動している団体がスキルを提供して新たなプログラムを開発するなどのつながりも生まれています。

泉北をつむぐ まちとわたしプロジェクト

大阪府の泉北ニュータウンの取組は、公園ではありませんが、住民が**今ある地域の魅力を使って活動し、それを発信**することでまちの魅力づくりにつながりました。また、レモンプロジェクトは、住民が家に植えていたレモンを使ってレモンのまちにするというもの。**新しくまちの魅力をつくり出してもいい**のです。活動は10年を超え、スキルアップ講座などを行いながら、今も活動を広げています。

泉佐野丘陵緑地

大阪府にある、「自分たちでつくっていく」公園。ここではパークレンジャーと呼ばれる人たちが、コラボレーション区域と呼ばれるエリアを自分たちで整備・維持管理しています。まずは活動拠点を整備し、その後道やベンチなどをつくっていきました。**普段日本の公園では制限されていることをあえて外すことで主体性が生まれ、これまでできなかったことができるようになる、参加者の自己実現につながっています。**

ポイント!!

- ✎ 何をを目指すのかが重要!
みんなで目指したいこと
個々に目指したいことを考えておく
- ✎ 公園は、市民活動を始めやすい
何かをはじめると公園でという
機運をつくっていくこと

さまざまな事例をご紹介しました。みなさんがすでに活動されていることや、楽しみがあると思うので、羽村でも面白い取り組みをスタートさせてください!

- ✎ いろんな楽しみ方がある
 - ・人とつながる楽しさ
 - ・自分の成長を感じる楽しさ
 - ・新しいことにチャレンジする楽しさ
 - ・地域に貢献する楽しさ
 まずは皆さんが楽しめることが大事



STEP
01

まずは参加者同士で自己紹介!興味があるジャンルや取組などを
書き出して、ペアになってじっくり話しました。



STEP
02

「TTP」をするために、全国・
世界の事例から興味があるこ
とをピックアップ!60もの事
例の中から特に気になるもの
5枚を選びました。



なかなか絞れず悩む参加者も。

STEP
03

最後に選んだ事例の傾向を踏まえて、グループでどん
なことを公園でしたいか話し合いました。ここでは、各
グループで盛り上がった意見や内容を紹介します。



ひとりでも

グループ1

- 自らが本気で楽しむこと
で、周りにゆるく公園の
楽しみ方を伝えたい
- ルールを作りすぎず、大
人も楽しめる公園に!
- ものづくりや学びを通して
子どもの想像力を育みたい
- 屋外空間でアートに関す
る表現の場を作りたい



だれかと一緒に

グループ2

- 夜もつかって大人も楽しめ
る“エモい”ひろばに!
- 常設する遊具やベンチを
みんなで作りたい
- ソーラーバッテリーを貸
出備品にして屋外調理に
チャレンジ
- 海外の公園のように利用
方法の幅を広げたい



だれかと一緒に

グループ3

- 羽村らしい「CHILL (チ
ル)」なイベントを!
- イベントをきっかけに対話
が生まれる場づくり
- 大人になったらできてい
ないことや非日常なことを
したい
- 家にある不要品を持ち
寄ったキャンドルイベント



だれかに対して

グループ4

- 今日は何をしているかな?
と楽しみになる公園にし
たい
- ラジオ体操のようにふ
らっときてふらっと解散で
きるプログラム
- 一見さんも参加できると
同時になじみの人も楽し
く過ごせるというバランス
が大切

